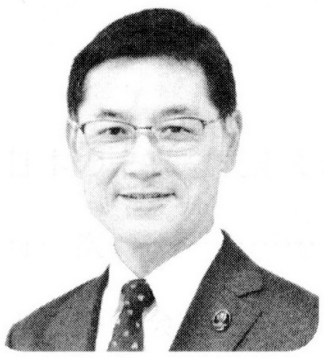
全国国公立幼稚園・こども園長会
70年のあゆみ

全国国公立幼稚園・こども園長会



日本の未来を支える幼児教育の充実・発展のために

全国国公立幼稚園・こども園長会
会長 新山裕之

昭和25年11月、京都市明倫小学校講堂において、「全国国公立幼稚園長会」の第１回総会が開催されました。それ以降、70年もの長きにわたって、多くの先輩方が、日本の幼児教育の充実のために努力を積み重ねてこられました。ここ数年は、幼児教育を取り巻く状況が大きく変化しており、平成27年４月からは、子ども・子育て支援新制度の開始を受けて、本会の名称も「全国国公立幼稚園・こども園長会」と改め、すでに５年が経とうとしています。

平成から時代が代わって間もない令和元年６月、第70回の記念すべき総会・研究大会は、地震からの復興が進む熊本市において開催されました。そして10月からは、幼児教育・保育の無償化が始まり、国公幼は今まで以上に大きな影響を受け始めています。長時間保育を希望する保護者が増え、少子化や財政難から、適正配置について話題になり始めている自治体もあります。一方で人材不足は深刻さを増し、全ての幼児に質の高い幼児教育を提供するために優秀な教員を確保することが一層難しくなり、処遇改善や教員の働き方改革なども早急な対応が求められる状況となっています。

質の高い幼児教育のためには、幼児にふさわしい環境を整え、幼児が興味を示して働き掛けて始めた遊びに寄り添い、その遊びの中で育ち、学んでいることを見極めていく教師の鋭い洞察力や高い指導力が必要です。国公幼は、日本初の幼稚園の誕生から140年以上、幼児と共に遊びや生活を創り出す日々の実践と省察を積み重ね、組織的な研修や研究体制を整えて、幼児教育の本質を追求し続け、教師の指導力の向上を図ってきました。実践的な研究と研修を通して、理論に裏付けられた実践を進めている点が、国公幼の強みです。

各地に増え始めている幼児教育センターや幼児教育アドバイザーは、幼児教育の質の向上や幼小の接続を推進していく拠点として、各地に確実になくてはならない施設や役職となってきています。そこで指導的な立場を担う人材を育成し、輩出してきているのは、ほとんどが国公幼です。現在はほとんど国公幼が引き受けている先進的な研究を実践する園もなくなりかねません。

保護者や地域住民、行政関係者等に向けて、幼児教育の専門家として、何より子どもの代弁者として、子どもの育ちや幼児教育の重要性について発信することは私たちの使命です。小学校教育との接続については、小学校以上の教育と共通の枠組みを使いながら、幼児教育としての特性も含めて分かりやすく説明する責任があります。地域のよさを生かし、ふるさとを愛する心を育てること、特別な支援が必要な幼児や外国籍幼児など、地域の様々な子どもたちを受け入れ、多様性を生かした実践を進めていくことも、国公幼の重要な存在意義です。

この「70年のあゆみ」は、大きなうねりの渦中にある幼児教育の海において、私たちがよりよい航路を見付け、国公幼という船をしっかりと前進させるための羅針盤となることを意図し、「50年のあゆみ」「60年のあゆみ」をベースに、本会の歴史や先輩方の努力を学ぶために作成したものです。一人一人に寄り添いつつ、集団としての育ち合いの力を生かして、子どもたちと共に遊びや生活を創り出し、育くんでいく営みを通して、私たち教師自身が育ててもらってきたはずです。次代を担う先生方が、教師という仕事に魅力ややりがいを感じ、自信をもって取り組んでくれたら、この上ない幸せです。日本の未来を支える幼児教育の充実・発展を図るために、全国の皆さんと力を合わせて、これまで以上に前向きに、力を尽くしていきたいと思います。